



初級レベル研修

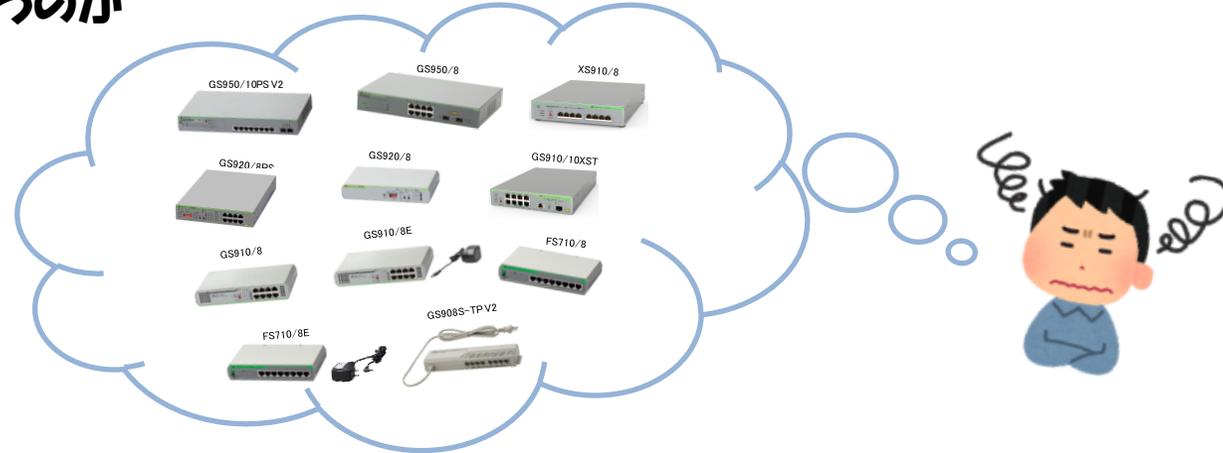
レイヤー2スイッチ選定セミナー

NETREND ウェビナー
(技術セミナー)

一般社団法人 情報通信設備協会

L2エッジスイッチの選定ポイント

なんでも良いと言われたけれど、種類が多くてどれにしたらいいのかわからない
いったい何が違うのか



L2エッジスイッチ(お客様の環境で末端に使用されるスイッチ) をご選定して戴く際は、以下の点がポイントです！

- ①何を接続するのかを確認する！
- ②接続する機器が何台あるのか確認する！
- ③スイッチ性能を確認する！
- ④必要機能を確認する！

* 特殊な機能を使わないのなら、選定ポイントは①～③の**たったの3項目**です！

* 特殊な機能はお客様にとって、とても有効な機能になる事もあります
本セミナーでは、よく使われる機能を紹介します

内容

①何を接続するか確認する

②接続する機器が何台あるのか確認する

③スイッチの性能を確認する

④必要機能を確認する

⑤レイヤー2エッジスイッチの選定例

Appendix : キャンペーンのご案内など



①何を接続するか確認する

何を接続するのか確認する

最近、ネットワークにつながる機器が多様化しています。パソコンやプリンターだけではなく、無線アクセスポイントやネットワークカメラも良く接続されます。また、IoTデバイスなるものが現れて、温度センサーや人感センサーという機器までネットワークにつながったりします。スイッチ選びには、まず**何がつながるのかを確認**します。

■ 確認のポイント

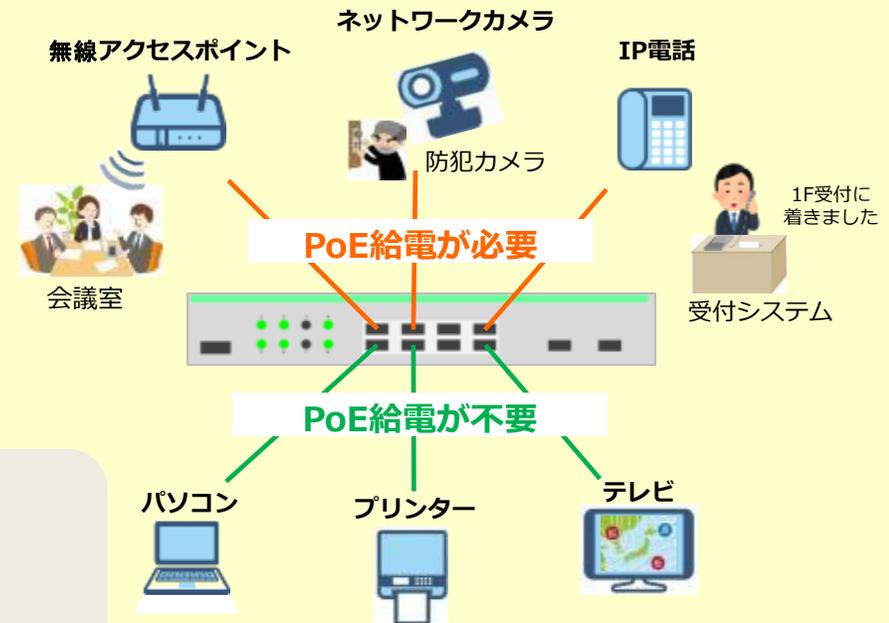
◆ スイッチに「**PoE給電が必要か否か**」を確認

※ PoE給電が必要な機器

- ✓ 「無線アクセスポイント」
- ✓ 「ネットワークカメラ」
- ✓ 「IP電話」
- ✓ 「IoTデバイス(PoE受電が必要な機器の場合)」

ポイント!

- ◆ PoE給電が必要な機器がない場合
⇒ 普通のスイッチを選ぶ
- ◆ PoE給電が必要な機器がある場合
⇒ PoE対応スイッチを選ぶ





②接続する機器が何台あるのか確認する

接続する機器が何台あるのか確認する

ネットワークにつながる機器に無線LAN対応の製品が多数出てきています。パソコンやプリンターの台数分のケーブルが必要ない場合も多い、でも無線でつなげられるのに、ケーブルもつなぎたいという顧客もいる。

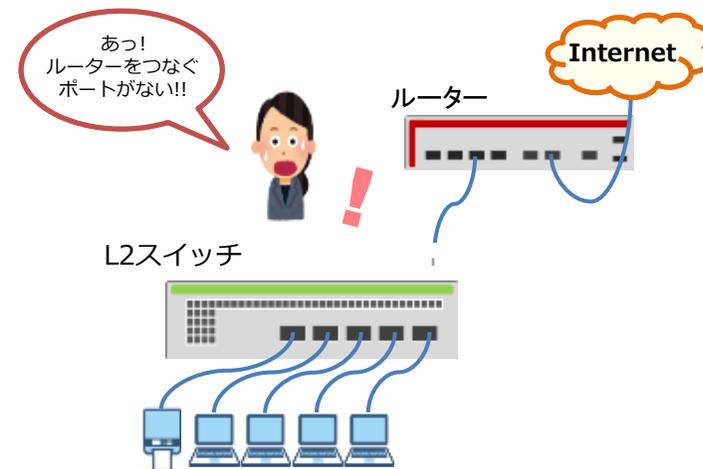
■ 確認事項

- ◆スイッチ選びでは、つながる機器が何台あるかを、常時つながる機器の台数だけではなく、一時的に接続される機器も含めて、**最大のポート数がどれだけ必要かを確認**

NOTE

よくありがちなのが、端末台数だけでポート数を選んで、インターネットに繋げるためのルーターを接続するポートやカスケード接続のポートを数え忘れてしまう。。

***念のためポート数は余裕をもって選定しましょう！**



1. 普通のスイッチを選ぶ場合

■ 端末の接続台数を確認

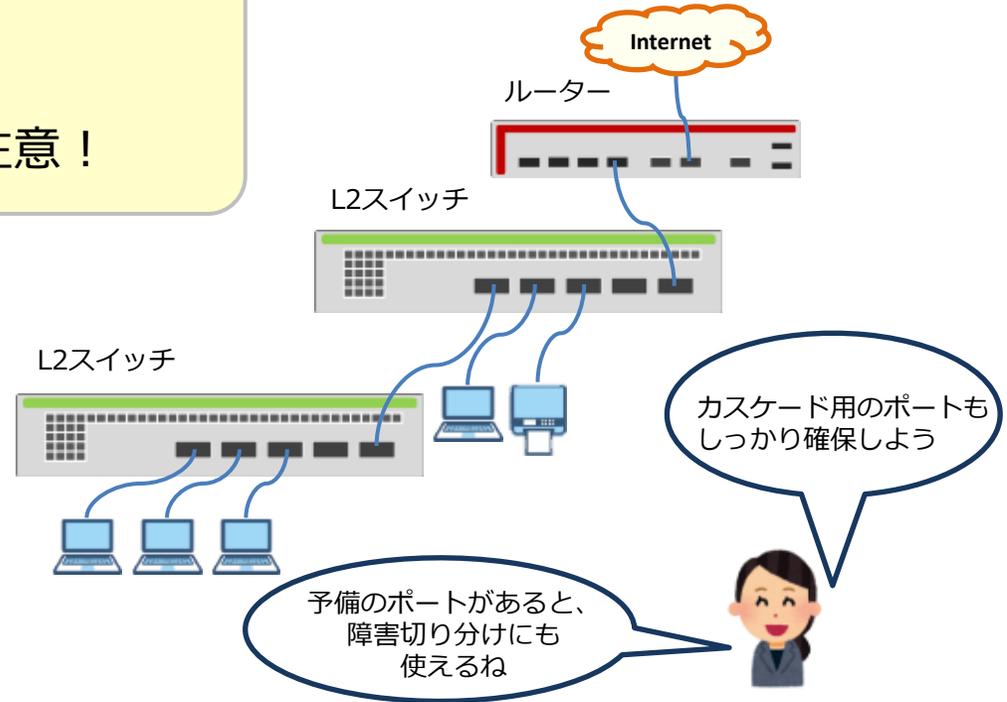
最大接続数(端末等の台数)

- 「1～3台まで」 ⇒ 5ポートスイッチを選定
- 「1～6台まで」 ⇒ 8ポートスイッチを選定
- 「7～14台まで」 ⇒ 16ポートスイッチを選定
- 「15～22台まで」 ⇒ 24ポートスイッチを選定
- 「23～46台まで」 ⇒ 48ポートスイッチを選定

※カスケード接続に必要なポート数の数え漏れに注意！

5ポートのスイッチは…
離れた場所にPC2台だけ、デジタルサイネージ用、保守メンテ用など、特殊な利用の時に選択します

事務室での利用は8ポートスイッチを選びます



2. PoE対応スイッチを選ぶ場合

PoE給電が必要な場合、ポート数だけでなく給電能力によって選ぶ必要があります。

ステップ1：受電が必要な機器の受電クラスを確認

- 「**受電クラス3**」 「**IEEE802.3af**」 の記載がある機器だけにPoE給電する場合は、**1ポートあたり最大15.4W給電出来るPoEスイッチを選定**
- 「**受電クラス4**」 「**IEEE802.3at (PoE+)**」 の記載がある機器にPoE給電する場合は(1台でも含まれる場合、将来的な拡張がある場合も含む)、**1ポートあたり最大30W給電出来るPoE+スイッチを選定**
- 「**受電クラスが5以上**」 「**IEEE802.3bt (PoE++)**」 の記載がある機器にPoE給電する場合は(1台でも含まれる場合、将来的な拡張がある場合も含む)、**1ポートあたりの最大給電可能電力が30Wより大きいPoE++スイッチを選定**

スイッチの
ポートあたり
「最大給電可能電力」
を確認



2. PoE対応スイッチを選ぶ場合

ステップ2：接続する受電機器全ての最大消費電力の合計値を確認

最大消費電力の合計値の計算方法には、以下の方法があります。

方法1：受電クラス3の機器は1台あたり15.4W、受電クラス4の機器は1台あたり30Wで計算

方法2：受電機器のベンダーが「PoE給電時の最大消費電力」を公開している場合はそのワット数で計算

方法1、方法2のいずれかで求めた最大消費電力の合計値から、アライドテレシスのスイッチを選定します。

- 「61.6Wまで」 ⇒ AT-GS920/8PS
- 「75Wまで」 ⇒ AT-GS950/10PS V2
- 「90Wまで」 ⇒ AT-IS130-6GP
- 「120Wまで」 ⇒ AT-IE220-6GHX
- 「124Wまで」 ⇒ AT-SH230-10GP、AT-x230-10GP、AT-IE210L-10GP
- 「150Wまで」 ⇒ AT-FS980M/9PS
- 「185Wまで」 ⇒ AT-GS950/18PS V2、AT-GS950/28PS V2
- 「240Wまで」 ⇒ AT-SE240-10GHXm、AT-x240-10GHXm、AT-IE220-10GHX
- 「247Wまで」 ⇒ AT-SH230-18GP、AT-x230-18GP、AT-IE210L-18GP
- 「250Wまで」 ⇒ AT-FS980M/18PS
- 「370Wまで」 ⇒ AT-SE240-26GHXm、AT-x240-26GHXm、AT-SH230-28GP、AT-x230-28GP、AT-GS950/52PS V2
- 「375Wまで」 ⇒ AT-FS980M/28DP
- 「740Wまで」 ⇒ AT-x230-52GP、AT-GS980M/52PS

※741W以上の製品選定では、レイヤー3スイッチのラインナップから検討する必要があります。

スイッチ装置全体の
「最大給電可能電力」
を確認

受電機器全ての最大消費電力の合計値が、スイッチ装置全体の最大給電可能電力を下回ればOKです！

受電機器の最大消費電力の合計値 < 最大給電可能電力（スイッチ装置全体）

方法1、方法2の補足事項

方法1：受電クラスで計算する場合

- 受電クラスで計算する場合は、下記のワット数を機器の台数分足して計算します。

クラス1 = 4.0W クラス2 = 7.0W クラス3 = 15.4W クラス4 = 30.0W
クラス5 = 45.0W クラス6 = 60.0W クラス7 = 75.0W クラス8 = 90.0W

(例) クラス3の無線アクセスポイント3台と、クラス4のネットワークカメラ2台を接続する場合
 $15.4 \times 3 + 30.0 \times 2 = 106.2$

方法2：PoE給電時の最大消費電力で計算する場合

- PoE給電時の最大消費電力とは、ケーブルでの電力の減衰を考慮した最大消費電力です。
- 電力はLANケーブルを流れる過程で減衰するため、給電機器は減衰する値を加えた電力を給電する必要があります。



(例) アライドテレシスの無線アクセスポイントにおいては以下の電力となります。
AT-TQ6702 GEN2 の場合
最大消費電力：24W PoE給電時の最大消費電力：26.53W

NOTE

アライドテレシスのレイヤー2スイッチでは製品によって、受電クラスを判断し給電を行う製品と、PoE給電時の最大消費電力を判断し、受電機器の実際の電力使用量に基づいて給電を行う製品の二通りがあります。

2. PoE対応スイッチを選ぶ場合

ステップ3：受電が必要な機器と不要な機器の総数を確認

最大接続数(端末等の台数)

- 「1台のみ」 ⇒ PoEインジェクターを選定可
- 「1～6台まで」 ⇒ 8ポートPoE対応スイッチを選定
- 「7～14台まで」 ⇒ 16ポートPoE対応スイッチを選定
- 「15～22台まで」 ⇒ 24ポートPoE対応スイッチを選定
- 「23～46台まで」 ⇒ 48ポートPoE対応スイッチを選定

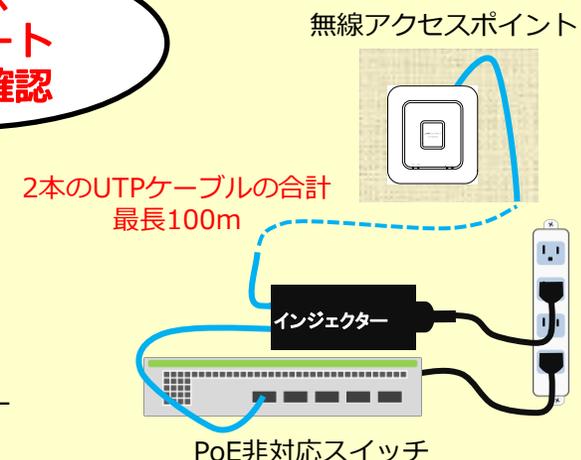


PoE+インジェクター
(AT-6101GP)



PoE++インジェクター
(AT-7101GHTm)

最後に、
接続ポート
総数を確認



ステップ4：ステップ1～ステップ3の順で選定しても該当製品が無い場合

最大給電可能電力（スイッチ装置全体）のワット数が大きい製品から選定します。

NOTE

ポート数の多い製品を選択する場合、ポート数の少ない製品を複数台選択するよりも**価格が高くなる場合があります**ので、ご注意ください。

NOTE

PoE給電が必要な機器とPoE給電が不要な機器が混在し利用するポート数が多い場合、PoE給電が可能なスイッチと普通のスイッチを分けて運用することをお勧めします。



③スイッチの性能を確認する

スイッチ性能を確認する

■ 確認事項

1. 通信速度を決める
2. スイッチングファブリックを確認する

NOTE

「通信速度」や「スイッチングファブリック」の値は性能の違いとして同等製品を比較する数値となります。



1. 通信速度を決める

現在、一般的に出荷されているパソコンのLAN接続ポートは1Gbpsの製品が多く、通信効率を考えるとスイッチも1Gbpsに対応できる製品を選ぶのが一般的です。

■選定ポイント

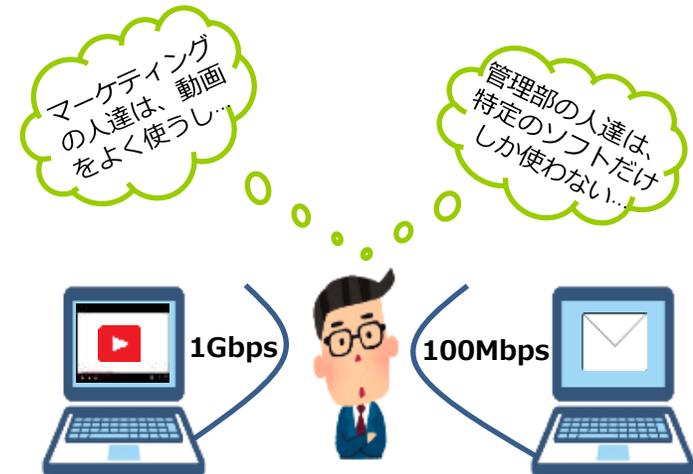
1. 使用するパソコンの通信速度と同じ通信速度を持つ製品を選定
2. 無線アクセスポイントを接続する場合は、1Gbps（無線LAN以上）の通信速度を持つ製品を選定
ただし、Wi-Fi6対応の無線アクセスポイントを接続する場合は、1Gbpsより速い通信速度（2.5Gbps/5Gbps/10Gbps）を持つスイッチの選定も検討

NOTE

利用状況によって安価な製品を選ぶこともできます。

- 動画や画像、100Mバイト以上の大きなファイルを頻繁に通信する環境・・・1Gbpsを選択
- 上記以外の通信・・・100Mbpsを選択

※ 大きなデータを頻繁にやり取りする環境でない限り、100Mbpsの通信で問題ありません
(無線アクセスポイント接続時も同様)



2. スイッチングファブリックを確認する

ポート数が同じ、対応速度が同じ場合に性能の違いを見ることができるのが、スイッチングファブリック(スイッチ内部で同時に処理できる通信量)の数値です。

■選定ポイント

- ◆ 比較対象のスイッチングファブリック値が大きい製品を選定

NOTE

ノンブロッキングスイッチ (=データの転送に遅延が発生しないスイッチ) を選定する

ノンブロッキングスイッチか、ブロッキングスイッチ (=データの転送に遅延が発生するスイッチ) かは、スイッチングファブリック値で決まる

(例) 1Gbpsのポートを8ポート持つスイッチの場合は、
16Gbps (=1Gbps×8ポート×2) 以上のスイッチングファブリック値を持つ
スイッチがノンブロッキングスイッチとなる

NOTE

製品を入れ替える場合など、スイッチングファブリック値が小さい
製品に入れ替わると通信が遅くなる可能性があります。





④ 必要機能を確認する

1. 冷却ファンの有無

冷却ファンがついている製品は、ファンの回転音が発生します。
スイッチ製品はデスクトップパソコンのように大きなファンを付けられないため、小型で風量を出すファンを採用します。そのため、デスクトップパソコンのファンよりも大きな音が発生します。

■ 選定ポイント

- ◆ 机周りにスイッチを設置する場合には、ファンを搭載していない「**ファンレスの製品**」を選定

※ 温度環境が過酷な場合は、製品の対応温度を確認し製品を選びます
※ 事務室以外やラック収納の場合はファン付の製品でも問題ありません



2. 壁面やラックへの設置

※スイッチは精密機器なので、ラック内の収容をお勧めしますが、**壁面やデスクサイドに設置する場合には、壁設置ブラケットやマグネットの利用**をご提案してください。

※**床面への直置きは、踏みつけやケーブルへの引っ掛かり**など、**故障や通信断の原因**となりますので出来るだけ避けて下さい。



■ 選定ポイント

1. 壁面やパーティションに固定する場合、「**壁設置ブラケット対応製品**」を選定

※壁設置ブラケットを壁面にねじ止めして設置します

2. 磁石が装着可能な壁面やデスクサイドに設置する場合、「**マグネットキットやマグネット付製品**」を選定

※状況によって設置場所を変更する場合などに有効です

3. 19インチラックに収容する場合には、「**ラックマウントキット対応製品**」を選定

壁設置ブラケット



マグネットキット



装着例

マグネットシート



装着例

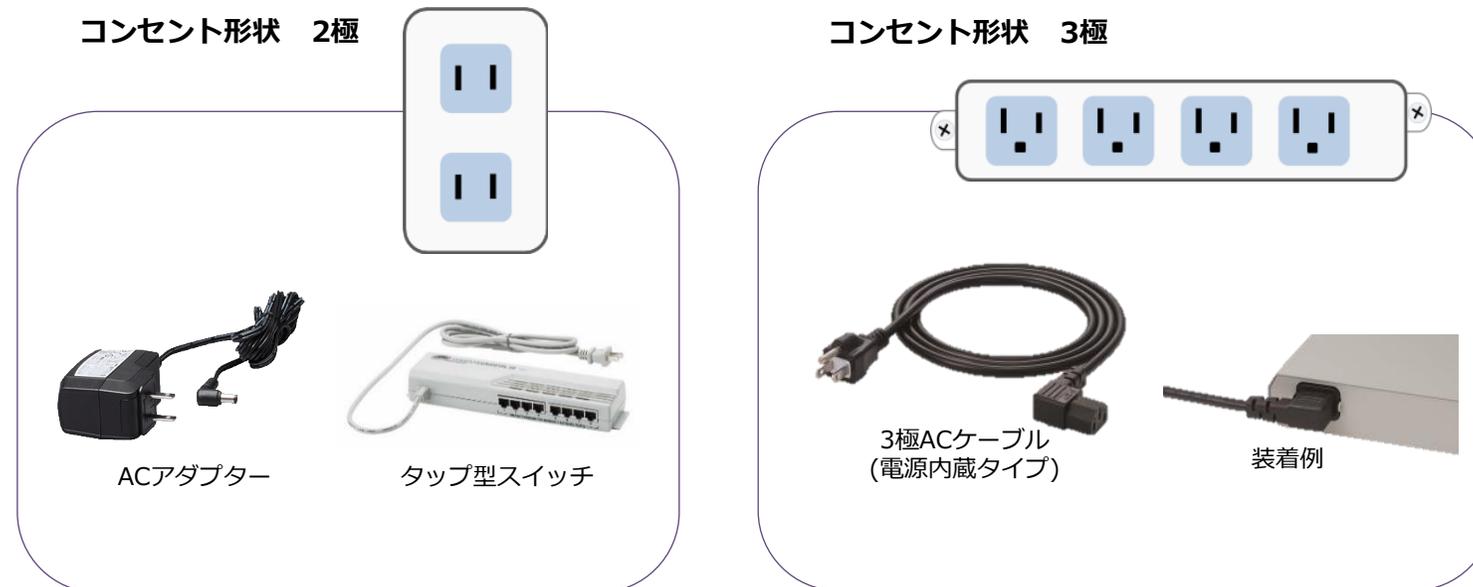
ラックマウントキット



3. 電源タイプ <外部電源（ACアダプター）と電源内蔵>

外部電源とは、「ACアダプター」タイプの製品を指します。
AC→DC変換する部分が筐体の外にあるため外部電源と表現しています。

ACアダプタータイプの製品は電源プラグが2極のため、3極コンセントが無い環境の場合に選択します
※タップ型スイッチは電源内蔵タイプですが、電源プラグが2極の製品が多いので、タップ型スイッチも選択可能です

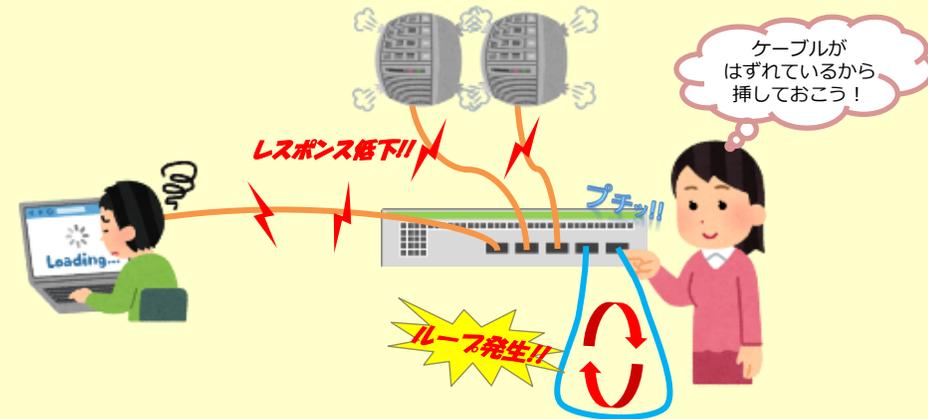


4. ループガード

ループ状態のネットワークを構築できる特殊な設定をしていない環境では、ケーブルの接続ミスなどによるネットワークのループ状態が発生すると、通信が不安定になったり、ネットワークがダウンしたりします。ループ状態を判断し、ネットワークのループ状態を防ぐ機能が「**ループガード機能**」です。予備のポートや予備のケーブルがあると発生しがちです。ネットワークの保守を行う方が経験するトラブルの上位に位置づけられています。

■ 選定ポイント

※ 保守メンテの稼働やトラブルを少しでも削減したい場合には「**ループガード機能対応製品**」を選定



NOTE

他社製品では**ループをお知らせするだけの製品**があります。
お知らせだけではトラブル回避にならないので、アライドテレシスの「ループになっているポートの通信を停止する」**ループガード機能付製品を選定**してください。

5. VLAN(Virtual LAN)

お客様から「VLAN機能付き」で依頼がきたら、VLANの種類を確認してください。
VLANにも種類があり、製品によりできる内容が異なります。

■VLANとは

スイッチの設定によってLANネットワークを分ける機能です

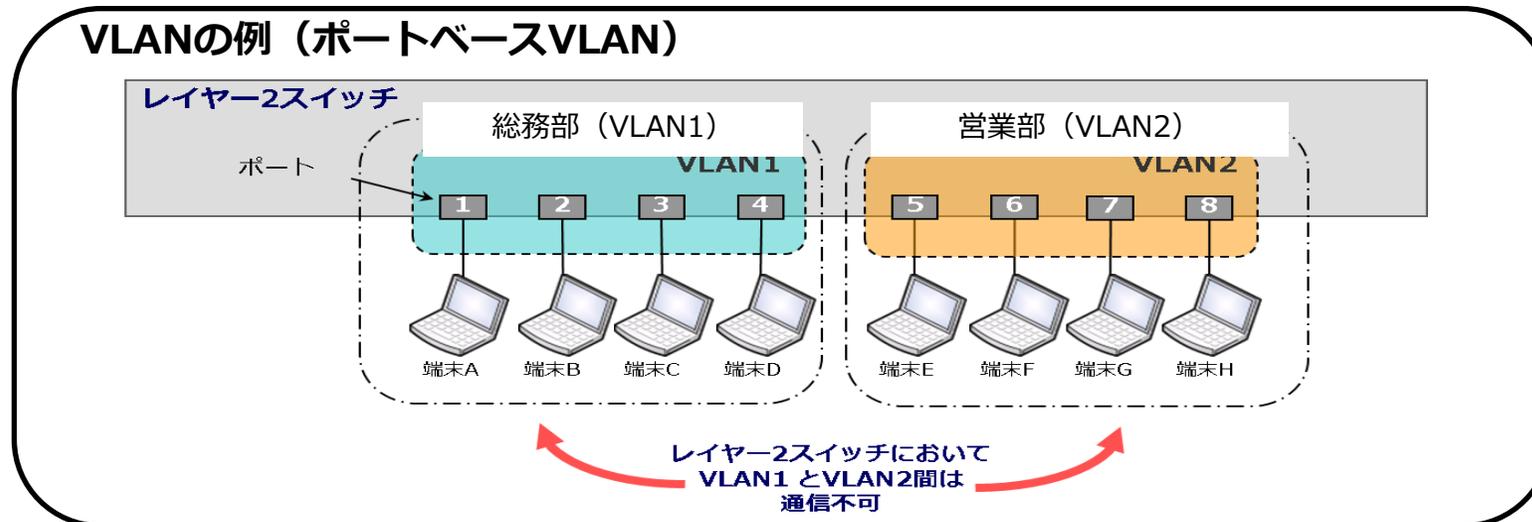
これにより各ネットワークグループ間で通信をさせないことが出来ます。

企業や学校など部署間ネットワークのセキュリティを保ちたい場合に利用します。

※VLANを詳しく知りたい方は「レイヤー2スイッチ基礎セミナー」で紹介しています。受講をご検討ください。

■選定ポイント

LANを分けたい場合はVLAN機能を搭載したスイッチを選定



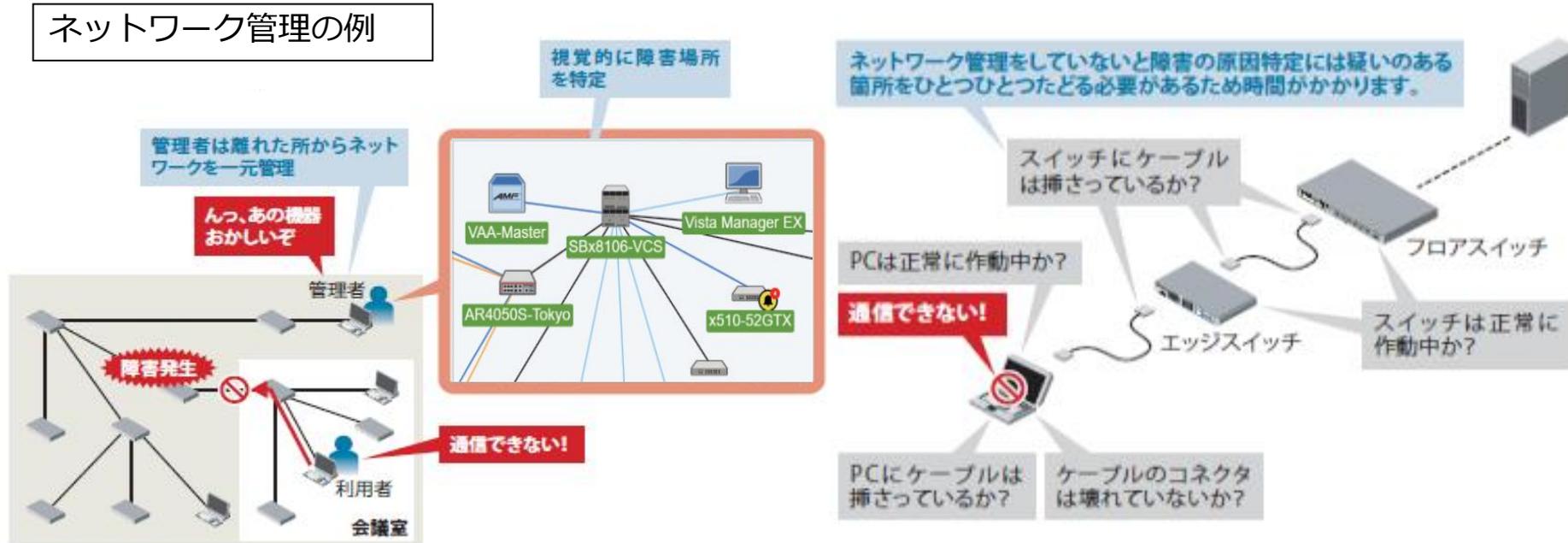
6. SNMP (ネットワーク管理機能)

■ SNMP (ネットワーク管理) とは

- ✓ スイッチ本体やスイッチのポート状態 (パソコンがつながっている/いない)、トラフィック量、エラーパケット数等、様々な情報を監視・管理することができる機能
- ✓ 遠隔で状態管理したり、ネットワークマネジメントソフト等で一括管理が可能

■ 選定ポイント

お客様から指定がある場合や遠隔でネットワーク機器の状態を管理したい場合は、「**インテリジェントスイッチ (SNMP機能を搭載したスイッチ)**」を選定





⑤ レイヤー2エッジスイッチの選定例

レイヤー2エッジスイッチの選定例

スイッチの選定は「レイヤー2スイッチ選定ガイド」の選定フローから製品をお選びいただけます

例) 普通のスイッチを選定する場合

- ・ 接続端末20台、1Gbps、電源タイプ3極、ポート固定設定機能※があるスイッチを選ぶ
(VLAN、SNMP機能は不要)

⇒ 上記条件では、AT-GS920/24が選定されます。



レイヤー2スイッチ選定ガイドは、
パートナークラブサイトからダウンロード頂けます。
<https://npa.allied-telesis.co.jp/login>
ご利用にはユーザーIDとパスワードの入力が必要です。

※ポート固定設定機能は、スイッチのポートの通信速度と通信方式を固定的に設定する機能です。
通常、スイッチは複数の通信速度と通信方式（全二重/半二重）に対応しており、オートネゴシエーションという機能によって、接続する機器が対応している通信速度と通信方式を自動で選択しますが、ポート固定設定機能を使用することにより、オートネゴシエーション機能を持たない機器などへの接続が可能となります。

レイヤー2エッジスイッチの選定例

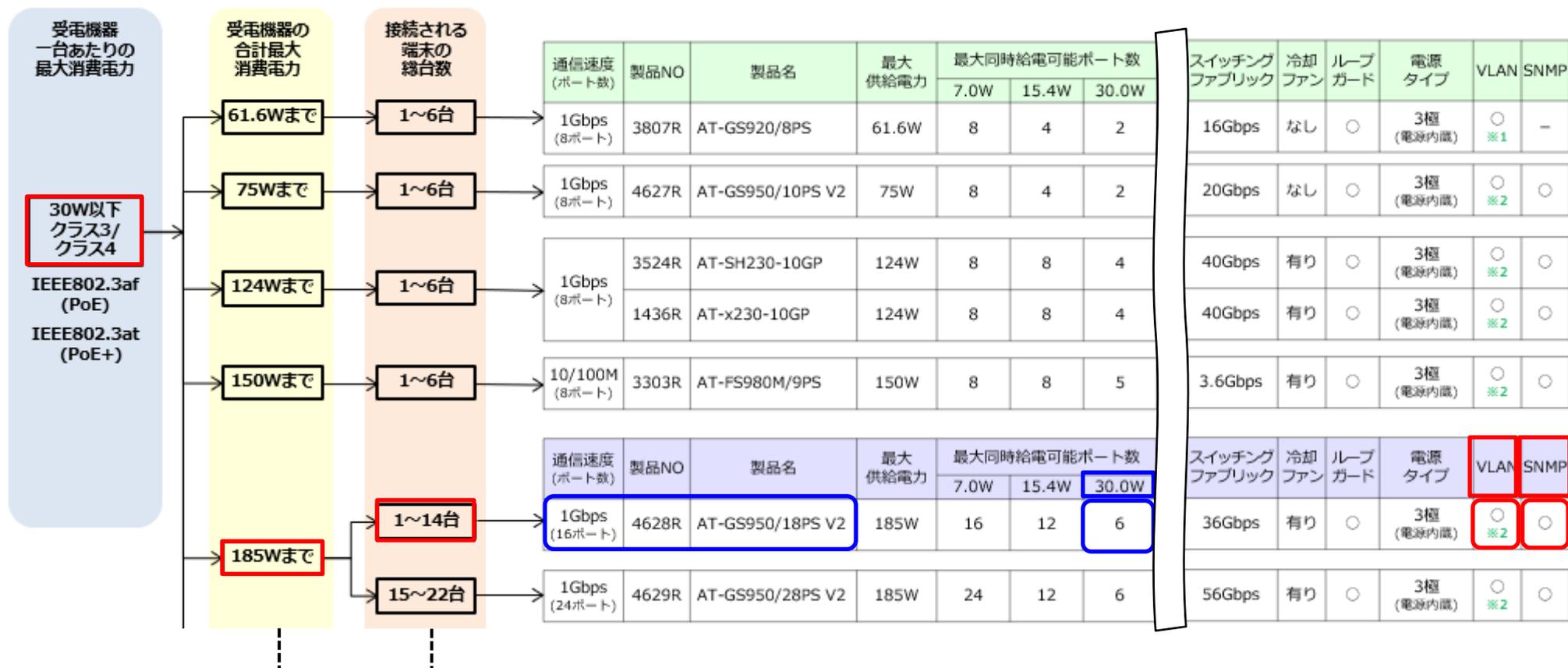
例) PoE対応スイッチを選定する場合

- 無線アクセスポイント「AT-TQ6702 GEN2」6台、VLAN、SNMP機能があるスイッチを選ぶ

「AT-TQ6702 GEN2」⇒ 受電クラス4のため、1台あたり30Wとして計算

受電機器の合計最大消費電力 ⇒ 30W×6台 = 180W

⇒ 上記条件では、AT-GS950/18PS V2が選定。6台のアクセスポイントへの給電も問題なし！



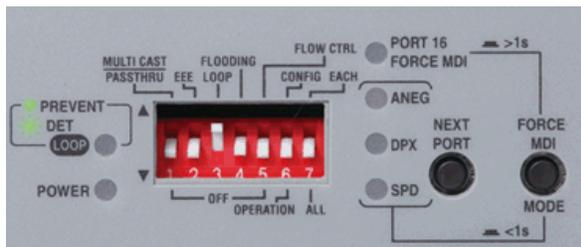
GS920 Series



AT-GS920/8
AT-GS920/16
AT-GS920/24



AT-GS920/8PS



DIPスイッチ、コンフィグレーションスイッチ

- **DIPスイッチで簡単設定**
 - CLIやGUIでの操作による設定が必要なループガード機能やパケット透過機能などを、DIPスイッチによって簡単に設定することが可能です。
- **マニュアル設定機能**
 - オートネゴシエーション機能に加えて、コンフィグレーションスイッチで、10/100/1000Mbps、Full/Half Duplex、フローコントロールON/OFFなどの手動設定が可能のため、異種ベンダー間接続の問題も解決できます。
- **ループガード**
 - 接続ミスなどで発生するネットワークのループを検出し、該当ポートの通信を遮断するループガード（LDF検出）に対応しています。
ループ収束後は自動的に通信を復旧させます。
- **マルチキャストパケット透過機能**
 - DIPスイッチの設定で、BPDU/EAPパケットを含むマルチキャストパケットの透過/非透過を切り替えることができます。
- **フラッディングモード**
 - 1つのポートで受信したフレームを受信ポート以外のすべてのポートへ転送するため、パケットのキャプチャーなどに利用することができます。
- **ファンレス設計、50℃対応**
 - 動作時温度50℃に対応し、高温環境下への設置が可能です。またファンレス設計で動作音が発生しないため、設置場所を選びません。

GS950 Series



AT-GS950/8
AT-GS950/16
AT-GS950/24
AT-GS950/48



AT-GS950/10PS V2
AT-GS950/18PS V2
AT-GS950/28PS V2
AT-GS950/52PS V2

5年保証



- **Webマネージメントによる簡単設定**
 - Web GUIを実装し、Webブラウザを利用した保守・管理が可能です。
- **ループガード**
 - 接続ミスなどで発生するネットワークのループを検出し、設定した動作（ポートディセーブルなど）を自動実行するループガードに対応しています。
 - 本製品はLDF検出をサポートしており、特殊フレームの送受信によりループを検出します。
- **多彩なVLAN**
 - IEEE 802.1Q準拠のタグVLANとポートベースVLANをサポート。さらにマルチプルVLANにも対応しているので、セキュリティを必要とするネットワークにも最適です。
- **IEEE 802.1X認証機能対応**
 - 認証モードとしてSingle Host/Multiple Hostに対応し、認証方式はMD5/TLS/TTLSをサポートしています。付加機能としてIEEE 802.1XダイナミックVLANをサポートし、より強力かつ柔軟なユーザー認証環境を実現します。
- **動作環境温度45℃/ファンレス設計**
 - 動作時温度45℃に対応し、高温環境下への設置が可能です。※
 - AT-GS950/8, AT-GS950/16, AT-GS950/24, AT-GS950/10PS V2はファンレス設計なので、動作音が発生しないため、設置場所を選びません。
- **PoE+ (IEEE 802.3at) に対応**
 - 本シリーズのPoEスイッチは、1つのポートで最大30Wの電力を供給します。

※AT-GS950/10PS V2の動作環境温度は0~40℃です。



AT-SE240-10GTXm



AT-SE240-26GTXm



AT-SE240-10GHXm



AT-SE240-26GHXm



- **ネットワークインフラのユニファイド化**
 - AMF Plusメンバー（エッジノード※1）機能に対応しています。
- **5Gマルチギガビットに対応**
 - 従来のUTPカテゴリ5eのケーブルをそのまま使用することができる、マルチギガビットレートインターフェースを全ダウンリンクポートに搭載しています。上位カテゴリのケーブルを新たに購入・敷設することなく、2.5GBASE-Tまたは5GBASE-Tの通信が可能になります。
- **PoE ++ (IEEE802.3bt) をサポート**
 - ポートあたり最大90Wの大容量PoE給電が可能なPoE++(IEEE 802.3bt)にも対応※2します。PoE++給電により、無線LANアクセスポイントやIPカメラなど従来のPoEデバイスに加え、センサーやLED照明など、新しい各種IoTデバイスへの給電も可能とします。
- **充実したセキュリティ機能**
 - **強固な認証機能をサポート**
同一ポート上でIEEE 802.1X認証/Web認証/MACアドレスベース認証の混在を可能とするTri-Auth機能や、同一ポート上でユーザーごとに別々の認証方式で認証し、かつ異なるVLANを動的に付与するマルチプルダイナミックVLAN機能など様々な認証機能に対応し、柔軟な認証環境を実現します。

※1 AMFバーチャルリンク・クロスリンクに対応せず、AMFリンカー一本のみ接続可能な、ネットワークエッジ向けに機能を限定したAMF Plusメンバー機能

※2 AT-SE240-10GHXm、AT-SE240-26GHXmで対応



Appendix : キャンペーンのご案内など



x240スタック推進キャンペーン

x240シリーズが機能拡張により、VCSによる**2台スタック**に対応します。
スタック対応記念といたしまして、x240/SE240シリーズのキャンペーンを行います。
エッジスイッチでもスタック構成を組み、ネットワークの帯域拡張ならびに可用性向上を実現します。またx240/SE240シリーズはダウンリンクにマルチギガポートを搭載しているため、昨今高速化が進む無線APやネットワークカメラ等の集約も可能です。

キャンペーン期間：

2024/9/1～2025/3/31受注分まで

(キャンペーン期間内の受注で、出荷はキャンペーン期間内での出荷が基本です。
ただし、キャンペーン終了月の受注のみ、出荷は翌月末までになります。)

PoE++モデル

AT-x240-10GHXm
標準価格—¥210,000
▶ **¥168,000**



AT-x240-26GHXm
標準価格—¥385,000
▶ **¥308,000**



AT-SE240-10GHXm
標準価格—¥179,000
▶ **¥143,200**



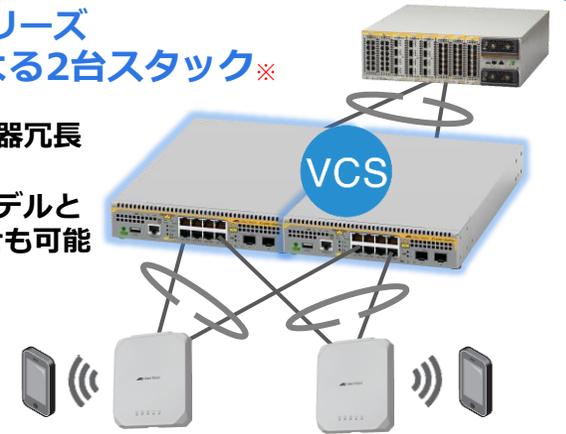
AT-SE240-26GHXm
標準価格—¥325,000
▶ **¥260,000**



Z5/Z7の
バンドル型番
も対象！

x240シリーズ VCSによる2台スタック※

- ◆エッジの機器冗長
- ◆他ポートモデルと組み合わせも可能



※ SE240シリーズは対象外です。

Non-PoEモデル

AT-x240-10GTXm
標準価格—¥155,000
▶ **¥124,000**



AT-x240-26GTXm
標準価格—¥290,000
▶ **¥232,000**



AT-SE240-10GTXm
標準価格—¥132,000
▶ **¥105,600**



AT-SE240-26GTXm
標準価格—¥245,000
▶ **¥196,000**



2024年9月時点のキャンペーン情報です。

製品名	ポート構成 (10M/100M/1000M/2.5G/5GT)	PoE最大給電能力
AT-x240-10GHXm AT-SE240-10GHXm	8 (PoE-OUT)	90W(1ポート) 240W(装置全体)
AT-x240-26GHXm AT-SE240-26GHXm	24 (PoE-OUT)	90W(1ポート) 370W(装置全体)
AT-x240-10GTXm AT-SE240-10GTXm	8	-
AT-x240 26GTXm AT-SE240 26GTXm	24	-

超特価でご提供！100Mスイッチキャンペーン！

100Mに対応したL2+スイッチのFS980Mシリーズで
機能・納期・お求めやすさの3拍子揃った大キャンペーンを開催

キャンペーン期間：
 2025/1/1～2025/6/30受注分まで
 (キャンペーン期間内の受注で、出荷はキャンペーン期間内での出荷が基本です。
 ただし、キャンペーン終了月の受注のみ、出荷は翌月末までになります。)

-標準価格より最大85%OFF-



	標準価格(税抜)
AT-FS980M/9	¥ 54,800
AT-FS980M/18	¥ 71,300
AT-FS980M/28	¥ 85,600

	キャンペーン価格(税抜)
	¥ 8,000
	¥ 19,000
	¥ 29,000



	標準価格(税抜)
AT-FS980M/9PS	¥ 98,800
AT-FS980M/18PS	¥ 142,800

	キャンペーン価格(税抜)
	¥ 19,000
	¥ 29,000

100Mでも豊富な機能

L2+スイッチの豊富な機能

L2スイッチに求められるトラフィックの
 フィルター機能やACLなどのセキュリティ
 機能を十全に備え、さらに28ポートモデル
 以上はVCS(スタック機能)による冗長化に
 も対応します。

■ Z5およびZ7型番もキャンペーン対象です

製品名	標準価格(税抜)	キャンペーン価格(税抜)
AT-FS980M/9-Z5	¥63,100	¥ 9,200
AT-FS980M/9-Z7	¥69,600	¥10,200
AT-FS980M/18-Z5	¥ 82,000	¥21,900
AT-FS980M/18-Z7	¥90,600	¥24,200
AT-FS980M/28-Z5	¥98,500	¥33,400
AT-FS980M/28-Z7	¥108,800	¥36,900

製品名	標準価格(税抜)	キャンペーン価格(税抜)
AT-FS980M/9PS-Z5	¥112,700	¥21,900
AT-FS980M/9PS-Z7	¥124,500	¥24,200
AT-FS980M/18PS-Z5	¥164,300	¥33,400
AT-FS980M/18PS-Z7	¥181,400	¥36,900

2025年1月時点のキャンペーン情報です。

各種販促情報のご案内

新製品のご紹介(Wi-Fi6対応無線LANルーター)

- Wi-Fi6とVPNルーターの機能を1台で提供
- エンタープライズ向け機能を搭載
 - FirewallやダイナミックENAT、IPsec、VAP、Captive Portal、WPA3など各種エンタープライズ向け機能を搭載
- AMF Plusによる一元管理に対応
- 様々なネットワークに適用可能
 - 無線LANルータとして、小規模店舗/ブランチオフィスや多店舗展開ネットワーク、通常の無線LAN APとして、企業内LANなど様々なネットワークをAT-TQ6702 GEN2-Rで構成可能



AT-TQ6702 GEN2-R



新製品のご紹介 (エッジスイッチシリーズ)

mGig L2 SW
x240シリーズ

AMF Plus	50°C	PoE ++
8	16	24 48
8	16	24 48



All 10G L2 SW
x250シリーズ

VCS	AMF Plus	50°C	PoE ++
8	16	24 48	
		24 48	
	16	24 48	



Copper Model Lineup

PoE Model Lineup

Fiber Model Lineup

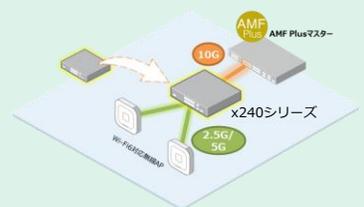
All 10G L3 SW
x540Lシリーズ

VCS	AMF Plus	50°C	PoE ++
24	48		
24	48		
24			



特長

Cat5e対応 mGig サポート
～配線の入替えなしで高速通信～



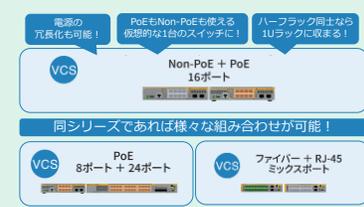
スタックサポート

～ネットワークのエッジにまで冗長性を～



環境に応じた拡張性

～組み合わせ自由なスタック構成～



Allied Labのご紹介



Allied Lab

で検索！

アライドテレシスの技術を製品担当が分かりやすく紹介。



...第十四回目：次世代高速通信を実現！
「マルチギガビットイーサネットの実力とは！」



...第十三回目：これ一台で構築できる！
「高セキュリティのWi-Fi・VPN環境をまるっと低コストで実現！」



...第十二回目：ネットワーク統合管理
「ネットワーク管理の手間をごそっと削減！」

...他、多数！

ビデオデータシートのご紹介



各種製品名

で検索！

製品の特長やユースケースなどを動画でご紹介します。



...PoE++対応マルチギガビットスイッチ
x530L GHXm シリーズ紹介



...マルチギガビット・インテリジェント・スイッチ
x240シリーズ 紹介



...マルチギガビット対応PoE++インジェクター
AT-7101GHTm紹介

...他、多数！



ご清聴ありがとうございました



今回ご紹介しました弊社スイッチ製品に関して、別途個別に相談がございましたら、お気軽に弊社営業までお問い合わせください